

晴れた日には出かけよう！
～まちのミリョクを再発見!!～

No.

大久野新井の古刹

てんしょうじ
「天正寺」



今回は、季節の移ろいを知らせる名木に囲まれた魅力ある天正寺に迫ります。

天正寺は、大久野小学校の西、平井川を望む山裾の南斜面にあるお寺です。曹洞宗のお寺で、開創は古く、室町時代とも伝えられています。ご本尊は木造聖観音坐像で、南北朝時代の作と推定されます。全高は約40cm、躯体は寄木造になっています。保存状態も良好でとても端正なお姿をしています。明治15年(1882)の大久野焼けでは、観音さまを境内の池に沈め焼失を免れたという逸話もあります。

観音さまは、国内で最も多くの信仰を集めた仏さまといっても過言ではないでしょう。その慈悲は広く深く、聖観音の姿から三十三もの姿に変わり人々を救済してくれるといえます。有名な観音さまでは、十一面観音や千手観音、如意輪観音、馬頭観音など。そのほかにも様々な姿があり、実際には全部でいくつの姿があるのか見当がつきません。

さて、『天正寺の梵鐘』は、昭和53年(1978)に町の有形文化財に指定されました。寛永12年(1635)加藤甚衛門吉久により造られたもので、室町時代の作風を残しています。



天正寺の鐘楼

太平洋戦争の末期に、軍部が国内で不足する金属を補うために寺院に対して梵鐘の供出を命じました。その際、全国多くの寺院の梵鐘は供出されてしまいましたが、天正寺の梵鐘は、幸いにも供出を免れることができ今に至っています。

境内を見渡すといくつもの名木が立ち、四季折々に色を添えています。参道の石段脇にある大イチョウは、境内の大樹の中でもひとときわ目を引く存在です。樹高は23mを誇り、秋には黄金色に葉を染め季節の移ろいを教えてくれます。かつては、大久野焼けの影響で出来た大きなウロ※1があり、近所の子どもたちが中に入って遊んでいたそうです。残念ながら、今ではすっかり埋まってしまい、当時の面影は残っ



黄金色に色付いた大イチョウ

ていません。

本堂左手奥にあるヒガンザクラは、樹高20mを超える古木で、幹に巻付いたツタが儼かな雰囲気をかもし出しています。花の見頃は3月下旬～4月上旬ごろです。また、その近隣にあるソメイヨシノも20m近い樹高がある大樹で、3月下旬には見事な花を咲かせます。

それらの樹木は、平成8年(1996)に日の出町教育委員会が作成した「日の出名木」にも選ばれています。

心地よい春の息吹を感じに訪れてみてはいかがでしょうか。



満開のヒガンザクラ

※1 ウロ：木に出来た穴。樹洞とも言います。

アクセス



天正寺へは「幸神」バス停下車、徒歩5分です。堀口橋駐在所脇の川沿いの道を入ります。

日の出WALK (観光マップ)【1-7】

